



二〇一六年秋、
また恵比寿から。

ただいま休館中です。
2016年秋、リニューアル・オープン予定。
Closed for renovations.
We will reopen in fall 2016.

東京都写真美術館リニューアル準備室

〒101-0063 東京都千代田区神田淡路町2-12 電話 03-3251-3700(代)
(受付時間:平日9:30~18:15)
※土曜、日曜、祝祭日、年末年始(2015年12月29日~2016年1月3日)を除きます
※リニューアル準備室では、展示・閲覧等は行っておりません

東京都写真美術館

〒153-0062 東京都目黒区三田
1-13-3 恵比寿ガーデンプレイス内
www.syabi.com

東京都写真美術館ニュース「アイズ15」84号 ●発行日:2015年3月31日 ●企画・編集:東京都写真美術館事業企画課 普及係 ●印刷・製本:JTB印刷株式会社
●発行:公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館 ©2015 ●本誌掲載の記事、写真の無断複写、複製を禁じます。



eyes
| 2015 Vol.84 |

TOKYO METROPOLITAN MUSEUM OF PHOTOGRAPHY
NEWS MAGAZINE

ただいま全館 休館中です

東京都写真美術館は、現在、館の大規模改修工事に伴い2016年8月末(予定)まで休館中です。1990(平成2)年の一次開館、そして1995(平成7)年の総合開館以来、約20年間にわたり写真と映像専門の総合美術館として日本におけるセンターの役割を担ってまいりました。この度の改修工事で、経年劣化に伴う設備機器の更新等を行い、公共施設としてお客様により安心して快適な美術館へと生まれ変わります。長期にわたる休館となりますが、皆様のご理解をお願い申し上げます。



平成27年度スクールプログラムのご案内

平成27年4月からのスクールプログラムは、学芸員が学校を訪問する出張形式で行います。詳細はホームページ「教育プログラム」をご覧ください。

佐藤時啓氏と高谷史郎氏が、 当館展覧会の成果で、平成26年度芸術選奨を受賞

佐藤時啓氏が「佐藤時啓 光一呼吸 そこにいる、そこにはない」(平成26年5月13日～7月13日)の成果に対して、また、高谷史郎氏が「高谷史郎 明るい部屋」(平成25年12月10日～平成26年1月26日)ほかの成果に対して、芸術選奨文部科学大臣賞を受賞しました。



3月18日の受賞式でスピーチをする高谷史郎氏

アートサイト「cinra.net」で、隔月連載を開始

当館監修による、写真と映像をテーマにした新しい連載が、アートサイト「CINRA.NET」(<http://www.cinra.net/>)で始まります。写真集の楽しみ方、初期写真の魅力、教育普及活動、作品鑑賞のコツなど、学芸員や専門家ならではのこだわりを身近に紹介します。第1回目は3月末アップ予定。どうぞお楽しみに!

ナディッフ バイテン営業再開のお知らせ

恵比寿のアートショップ「ナディッフ アパート」店内に、「ナディッフ バイテン」コーナーがオープンしました。当館の図録やオリジナルグッズ、広報誌別冊『ニアイズ』単行本等を販売しています。どうぞご利用ください。



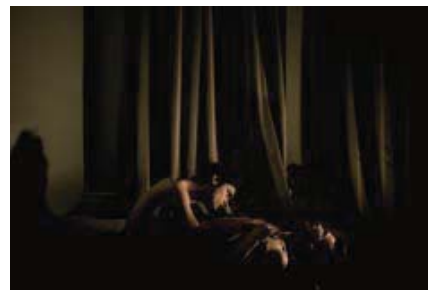
お問い合わせ

NADiff X10 ナディッフ バイテン
(NADiff a/p/a/r/i ショップインショップ)
〒150-0013 東京都渋谷区恵比寿1-18-4
NADiff A/P/A/R/T 1F TEL.03-3446-4977
<http://www.nadiff.com/>
<http://www.nadiff-online.com/>
※オンラインストアも引き続きご利用いただけます。

休館中も池袋で開催! **会場** 東京芸術劇場(池袋)ギャラリー1

世界報道写真展2015 World Press Photo 2015

会期:2015年6月27日(土)～8月9日(日)



世界報道写真大賞

マッツ・ニッセン(デンマーク、スキャンピクス/パノス・ピクチャーズ)ロシア、サンクトペテルブルク



スポーツの部 単写真1位

鮑泰良氏(中国、成都商報) ブラジル、リオデジャネイロ

予告「フォトドキュメンタリー・ワークショップ2015」

7月18日(土)、19日(日)、20日(月・祝) ※3日間通し
主催:東京都写真美術館/朝日新聞社
会場:東京芸術劇場ミーティングルーム7(池袋)
講師:Q.サカマキ(写真家、WPP07受賞者、NY在住)、
外山俊樹(「アエラ」フォトエディター)
※募集の詳細は、2015年4月下旬頃にホームページにて発表します

毎年、世界中の約100会場で開催される世界最大規模の写真展「世界報道写真展」。今年のコンテストは、131の国と地域から5,692人のフォトグラファーが参加し、97,912点の応募から大賞などの受賞作品が決まりました。受賞作品を紹介する「世界報道写真展2015」は例年開催している東京都写真美術館(恵比寿)がリニューアル休館中のため、池袋の東京芸術劇場ギャラリーで6月27日から開催します。

今年は8つの部門で42人が受賞しました。大賞は、デンマークのマッツ・ニッセン氏がロシアで同性愛の男性2人の姿を撮影した作品です。同氏は「ロシアでは、レズビアン、ゲイ、バイセクシュアル、トランスジェンダー(LGBT)の暮らしがますます困難になっている。性的少数者は法的、社会的な差別や嫌がらせ、犯罪の被害にさらされている」と述べています。

「一般ニュース」の部などでは、ウクライナの混乱を示す写真も受賞しています。セルゲイ・イルニツキー氏(ロシア)はウクライナ・ドネツク中心街の台所の残骸を撮影し、多数の死傷者を出した砲撃の惨状を静かに伝え、「一般ニュースの部」単写真1位を受賞しています。また、スポーツや自然、ポートレートなど幅広い分野の写真を紹介しているのも本展の魅力です。鮑泰良氏(中国)はサッカーW杯の決勝戦で、ドイツに敗れたアルゼンチンのメッシ選手を捉え、アミ・ヴィタール氏はケニア北部の自然保護区に生きる野生のサイとサンブル族の若者を撮影、受賞しました。さらに、今回からは「長期取材」の部が新設され、前年に撮影された写真だけではなく、長期プロジェクトで撮影した作品も展示されます。

同じ時代を生きる人たちの、普段目にするのが少ない現実。写真展を通して、世界で起きている紛争や現代社会の問題、奇跡的なスポーツの瞬間や、壊されゆく自然の姿を知ることのできる貴重な展覧会です。

主催:世界報道写真財団/朝日新聞社 共催:東京芸術劇場/東京都写真美術館 協賛:キヤノンマーケティングジャパン株式会社 観覧料:一般 800(700)円/学生(大学、専門学校) 600(500)円/中学生・65歳以上 400(350)円 小学生以下および障害者手帳をお持ちの方とその介護者は無料。※()内は前売り料金および20名以上の団体

支援会員 Corporate Members

東京都写真美術館の活動をご支援いただくため、次の企業・団体に支援会員としてご入会いただきました。

特別賛助会員 キャノン(株) (株)資生堂 (株)ニコン 特別支援会員 (株)キタムラ キャンマーケティングジャパン(株) 大日本印刷(株) 凸版印刷(株) 富士フイルム(株) (株)リコー 支援会員 (株)&S BBDO (株)AOI Pro. (株)アサツー ディ・ケイ 旭化成(株) 朝日新聞社 (株)朝日新聞出版 朝日生命保険(相) アサヒグループホールディングス(株) 朝日放送(株) アスクル(株) (株)アートよみうり (株)アマナ (株)岩波書店 ウェスティンホテル東京 (株)潮出版社 内田写真(株) (株)栄光社 (株)エスジー (株)ADKアーツ NECディスプレイソリューションズ(株) (株)NHKアート (株)NHK営業サービス(株) (株)NHKエデュケーショナル (株)NHKエンタープライズ (株)NHKグローバルメディアサービス (株)NHK出版 (株)NHKビジネスクリエイト (株)NHKプロモーション (株)NHKメディアテクノロジー	(株)NTTデータ NTT都市開発(株) エプソン販売(株) エルメス財団 (株)Office Mam オリックス(株) オリンパスイメージング(株) オノンワードホールディングス(株) オニックス(株) オリックス(株) オノンワードホールディングス(株) 花王(株) カンオ計算機(株) 鹿島建設(株) (株)KADOKAWA カトーレック(株) 神奈川新聞社 カルビス(株) (株)キクチ科学研究所 キッコーマン(株) (株)紀伊國屋書店 ギャラリー小柳 共同印刷(株) (一社)共同通信社 協和発酵キリン(株) (株)久米設計 興亜硝子(株) (株)弘亜社 (株)廣済堂 (株)講談社 (株)光文社 (株)国書刊行会 (株)コスモスインターナショナル (株)コーセー コダック(同) 小山登美夫ギャラリー(株) (株)ザ・アール サッポロ不動産開発(株) サッポロホールディングス(株) 三機工業(株) 産経新聞社 サントリーホールディングス(株) (株)サンライズ (株)ジェイアール東日本企画 JSR(株) JXホールディングス(株) ジェイティービー印刷(株)	(株)シグマ (株)実業之日本社 信濃毎日新聞社 (株)写真弘社 写真の学校 / 東京写真学園 シャネル(株) (株)集英社 (株)主婦と生活社 (株)主婦の友社 (株)小学館 松竹(株) 信越化学工業(株) (株)新潮社 (株)スタジオアリス (株)スタジオエムジュー (株)スタジオジブリ スターツ出版(株) 住友化学(株) 住友生命保険(相) (株)スリーポンド (株)生活の友社 セイコーホールディングス(株) (株)青春出版社 成美製版(株) 積水ハウス(株) 全日本空輸(株) ソニー(株) 損害保険ジャパン日本興亜(株) 第一生命保険(株) 第一法規(株) (株)ダイケングループ 大成建設(株) (株)大丸松坂屋百貨店 大和証券(株) (有)タカインシイギャラリー 高砂熱学工業(株) (株)高島屋 (株)宝島社 (株)竹中工務店 玉川大学芸術学部 (株)タムロン (株)丹青社
--	---	--

(読面右に続く)

平成26年度 東京都写真美術館 新規収蔵作品のご紹介

本年(平成26年)度に収集された東京都写真美術館の新規収蔵作品より、主な作家と作品をご紹介します。

美術館の機能は、作品収集と展覧会開催の両軸に支えられています。限られた予算を最大限有効に活用するため、学芸員は日々の研鑽とネットワークを生かし、毎年優れた作品の調査と収集提案を行っています。そして、重点収集作家から新進作家まで、写真・映像文化を理解する上で重要な作品を、幅広く収集しています。

また、当館の支援会員である団体・企業の皆様の多大なるご援助は、散逸が危惧される歴史的に貴重な幕末から近代の作品収集のために、欠かすことのできないご支援です。特に初期写真作品は、幅広いお客様にとって関心の高いジャンルでもあり、本年度も、専門美術館ならではの作品を収蔵することができました。作品の収集にあたり、都民の皆様や支援会員様をはじめ、ご支援・ご協力をいただきましたすべての皆様にと、心より御礼申し上げます。

これらの作品には、平成28年秋のリニューアル・オープン後に、いち早くお披露目を予定しているものもあります。現在、学芸員は、作品との新しい出会いと感動をお届けするために、展覧会準備に励んでいます。どうぞご期待ください。



下岡蓮杖 徳川家康像 1864年頃 石版画

下岡 蓮杖 (SHIMOOKA Renjo, 31点)

1823(文政6)年生まれ。弘化年間、狩野董川に師事した画家生活において、ダゲレオタイプの肖像写真を眼にし、写真技術習得を志す。ヘンリー・ヒュースケンやジョン・ウィルソンとの関わりから写真師への道を歩み、1862(文久2)年に横浜で開業した。1875-76(明治8-9)年に東京浅草へ移転するまで写真師として活躍し、この後絵師の生活へと回帰したが、その間にも牛乳屋、東京-横浜間の馬車、ビリヤード場、油画茶屋などを経営するなど、日本へ海外文化を積極的に輸入する国際的文化交流に貢献した。1914(大正3)年没。本作は「没後百年 日本写真の開拓者 下岡蓮杖」(2014年3月4日~5月6日)に展示。



フェリーチェ・ベアト 扇を持つ女性 1863-66年頃 鶏卵紙に手彩色

Felice Beato

(フェリーチェ・ベアト、7点)

1834年生まれ。当時英国領であったコルフ島(現ギリシア領)生まれ。コンスタンティノーブル(当時)で義兄にあたる写真技術を持つ印刷技師ジェームス・ロバートソンと姻族となり、ロバートソンに随伴してクリミア戦争に従軍して写真撮影を習得した。その後もインド動乱や第二次アヘン戦争など英国軍に関わる戦跡の写真撮影を行い、1863(文久3)年春に来日。チャールズ・ワーグマンと共に横浜で起業した。1884(明治17)年に離日。本作は、横浜居留地の大火(1866年10月)によって焼失した初期のスタジオでの制作と考えられる。1908年没。

William H. Mumler

(ウィリアム・H. マムラー、1点)

ニューヨーク、ボストンで活動した最初の「心靈写真家」とされる。1860年代以降、亡くなった家族や恋人の「霊」とともに依頼主の肖像を撮影するという触れ込みで、2枚の異なるネガからの二重露光によって、人物肖像と「霊」が重なった画像を制作し、商業的な成功を収めた。

ウィリアム・H. マムラー
ニューヨークのチャールズ・H. フォスターと
アダ・アイザックス・メンケン 1871年 鶏卵紙

Frederick A. Hudson

(フレデリック・A. ハドソン、1点)

19世紀イギリスにおける初期の「心靈写真家」。職業写真家として活動する中で、1870年頃から心靈主義者で画家のジョージアナ・ヒュートンと共同で「霊」のいる人物肖像写真を多数手がける。小説家のアーサー・コナン・ドイルをはじめ当時の知識人たちの注目を集めるが、後に創作であることが明るみに出た。

フレデリック・A. ハドソン
No.12 1872年 鶏卵紙

表紙)下岡蓮杖 GAB「日本」ステレオ写真 1866-76年頃
鶏卵紙(表紙は部分)
表紙およびこのページに掲載されている作品は、
支援会員の皆様のご援助により収蔵いたしました。
作家名、(平成26年度の収蔵作品数 ※購入・寄贈含む)



(株)中央公論新社
中外製薬(株)
帝人(株)
(株)TBSテレビ
デジタル・アドバタイジング・コンソーシアム(株)

(株)テレビ朝日
(株)テレビ東京
電源開発(株)
(株)電通
(株)電通テック
東亜建設工業(株)
東映(株)
東急建設(株)
東京海上日動火災保険(株)
東京急行電鉄(株)
東京工芸大学
東京新聞・中日新聞社
(株)東京スタデオ
東京造形大学
東京総合写真専門学校
東京テアトル(株)
東京都競馬(株)
(株)東京ドーム
(株)東京ニュース通信社
(株)東京美術倶楽部
(学)専門学校 東京ビジュアルアーツ
東京メトロポリタンテレビジョン(株)

(株)博報堂
(株)博報堂DYメディアパートナーズ
(株)博報堂プロダクツ
(株)バス・コミュニケーションズ
(株)ハースト婦人画報社
パナソニック(株)
(株)パラゴン
ハリミキ
びあ(株)
ビービーメディア(株)
北海道 写真の町東川町
東日本旅客鉄道(株)
(株)光写真印刷
(株)美術出版社
(株)日立製作所
(株)日立物流
(株)ビックカメラ
(株)ビデオプロモーション
ヒノキ新薬(株)
(株)ピラミッドフィルム
(株)トロンマネージメント
(株)ニコイメージングジャパン
日外アソシエーツ(株)
日油(株)
日活(株)
(株)日経BP
日光ケミカルズ(株)
日産自動車(株)

(株)日本カメラ社
(株)日本空港ビルデング(株)
日本経済新聞社
(株)日本広告社
(公社)日本広告写真家協会
日本カメラ(株)
日本色材工業研究所
日本写真印刷(株)
(公社)日本写真家協会
(公社)日本写真家協会
日本写真芸術専門学校
(一社)日本写真文化協会
日本大学芸術学部
日本たばこ産業(株)
日本テレビ放送網(株)
(株)ニッポン放送
日本ロレックス(株)
(株)ニューアートディフュージョン
ノーリツ鋼機(株)
(株)博報堂
(株)博報堂DYメディアパートナーズ
(株)博報堂プロダクツ
(株)バス・コミュニケーションズ
(株)ハースト婦人画報社
パナソニック(株)
(株)パラゴン
ハリミキ
びあ(株)
ビービーメディア(株)
北海道 写真の町東川町
東日本旅客鉄道(株)
(株)光写真印刷
(株)美術出版社
(株)日立製作所
(株)日立物流
(株)ビックカメラ
(株)ビデオプロモーション
ヒノキ新薬(株)
(株)ピラミッドフィルム
(株)トロンマネージメント
(株)ニコイメージングジャパン
日外アソシエーツ(株)
日油(株)
日活(株)
(株)日経BP
日光ケミカルズ(株)
日産自動車(株)

(株)ブルームズ
(株)フレームマン
(株)文化工房
(株)文藝春秋
(株)ベネッセホールディングス
ベルボン(株)
北海道新聞社
(株)ホテルオークラ東京
(株)堀内カラー
本田技研工業(株)
毎日新聞社
(株)マガジンハウス
マミヤ・デジタル・イメージング(株)
丸善(株)
(株)マンダム
(株)みずほ銀行
三井住友海上火災保険(株)
三井住友信託銀行(株)
三井倉庫(株)
三井不動産(株)
(株)三越伊勢丹 三越恵比寿店
三菱地所(株)
三菱製紙(株)
三菱倉庫(株)
三菱電機(株)
三菱UFJ信託銀行(株)
(株)ミルボン
武蔵大学
明治安田生命保険(相)
森ビル(株)
ヤマトロジスティクス(株)
横河電機(株)
(株)吉野工業所
(株)ヨドバシカメラ
読売新聞社
ライオン(株)
ライカカメラジャパン(株)
リコーイメージング(株)
リシュモン ジャパン(株)
モンブラン
(株)良品計画
(株)ロボット
(株)ワコウ・ワークス・オブ・アート
(株)ワコール
(株)ワッツ オブ トーキョー

(株)=株式会社、(相)=相互会社、(有)=有限会社、(学)=学校法人、(公社)=公益社団法人、(同)=合同会社、(一社)=一般社団法人

(平成27年3月現在・五十音順)

平成26年度 東京都写真美術館 新規収蔵作品のご紹介

作家名、(平成26年度の収蔵作品数 ※購入・寄贈含む)

平成26年度
新規収蔵作品数
計1060点(購入・寄贈含む)
① 写真作品801点
(国内755点、海外46点)
※うち支援会員購入は39点
② 映像作品30点
③ 写真資料229点
※うち支援会員購入は1点

※平成28年秋からの展覧会スケジュールは、平成28年4月頃に発表いたします
※収集の基本方針は、当館ホームページ「コレクション検索」よりご覧いただけます



ダヤニータ・シン Myself Mona Ahmed Taking Ayesha to school 1992年 セラチンシルバープリント

Dayanita Singh(ダヤニータ・シン, 21点)

1961年、インド・ニューデリー生まれ。1980～86年、インド、アーメダバードの国立デザイン大学で、1987～88年、ニューヨークのICP(国際写真センター)でドキュメンタリー写真を学ぶ。その後、様々な雑誌や新聞の仕事の後、ドキュメンタリーとフィクションの独特な統合を目指す作品によって注目を浴びる。2003年、ハンブルガー・パンホフ現代美術館(ドイツ)、10年、マブフレ財団(スペイン)、13年からはハイワード美術館やフランクフルト現代美術館など、主要美術館で個展が目白押しの世界が注目する女性写真家である。



中谷美二子 老人の知恵—文化のDNA 1973年 シングルチャンネル・ビデオ

中谷 美二子 (NAKAYA Fujiko, 3点)

北海道生まれ。1970年、大阪万博のペプシ館で《霧の彫刻》を初めて制作。以降人工霧を使った霧環境、インスタレーション、公園設計、舞台作品等を世界各地で発表。72年、「ビデオひろば」の結成に参加し、自らもビデオ作品を発表。80年に「ビデオギャラリー・SCAN」を開設するなど、日本におけるビデオ・アートのパイオニアとしても知られる。



木村恒久 アートディカルタワー 1971年 フォト・モンタージュ

木村 恒久 (KIMURA Tsunehisa, 15点)

1946年、大阪市立工芸学校(現・市立工芸高校)図案科卒。50年代にかけて大阪で精力的にデザイン制作や批評活動を展開。永井一正、片山利弘、田中一光らとともに「若手四天王」と称される。60年に上京し日本デザインセンターに入社、64年に独立。この間の62年、日本建築家協会主催「モジュール展」で原弘と共同制作を行い、ADC銅賞を受賞。68年頃からフォト・モンタージュ作品を数多く手がけるようになる。



山田實 靴磨きの少年 国際通り 1956年 セラチンシルバー・プリント

山田 實 (YAMADA Minoru, 30点)

沖縄県生まれ。満州で終戦をむかえ、シベリア抑留後、1952年那覇へ帰還。山田写真機店を開業。戦後沖縄写真界の草分け的存在となる。基地や闘争の写真からは距離をおき、子供や庶民の日常生活をいねいに撮りおさめる。2000年沖縄県文化功労賞、12年沖縄県立博物館・美術館にて個展を開催。



須田一政 恋山 1962年 セラチンシルバー・プリント

須田 一政 (SUDA Issei, 5点)

東京都神田生まれ。1962年、東京総合写真専門学校卒業。3歳の時、事故で聴力と言葉を失う。戦前より写真を撮り始め、89年、岩田屋デパートのキャンペーンに写真が採用され、同年福岡市で写真展を開催。90年、パリ写真週間に出展。93年、アール国際写真フェスティバルに招待され、アール名誉市民賞を受賞。写真集「想い出の街」「あの頃 1959年、沖縄の空の下で。」「こどものいた街」などがある。93年、この世を去った後も、東京、京都、沖縄、スイス、アメリカ・ロサンゼルスなどで展覧会を開催。2014年には、JCIIフォトサロンで「昭和の情景—おとさん」が開催された。

井上 孝治 (INOUE Koji, 111点)

1919年、福岡県生まれ。38年、福岡県立福岡高等学校中級部卒業。3歳の時、事故で聴力と言葉を失う。戦前より写真を撮り始め、89年、岩田屋デパートのキャンペーンに写真が採用され、同年福岡市で写真展を開催。90年、パリ写真週間に出展。93年、アール国際写真フェスティバルに招待され、アール名誉市民賞を受賞。写真集「想い出の街」「あの頃 1959年、沖縄の空の下で。」「こどものいた街」などがある。93年、この世を去った後も、東京、京都、沖縄、スイス、アメリカ・ロサンゼルスなどで展覧会を開催。2014年には、JCIIフォトサロンで「昭和の情景—おとさん」が開催された。



長島有里枝 <SWISS>より 薪置場のバラ 2007年 発色現像方式印刷

長島 有里枝 (NAGASHIMA Yurie, 10点)

1973年、東京都中野区生まれ。95年、武蔵野美術大学造形学部視覚伝達デザイン学科卒業。99年、カリフォルニア芸術大学ファインアート科写真専攻修士課程修了。93年、家族とのヌードポートレイトで「アーバーナート#2」展バルコ賞を受賞しデビュー。2001年、写真集「PASTIME PARADISE」で、第26回木村伊兵衛賞受賞。2010年、エッセイ集「背中の記憶」で第26回講談社エッセイ賞受賞。主な写真集に「YURIE NAGASHIMA」(95年)、「Empty white room」(95年)、「家族」(98年)、「not six」(04年)、「[SWISS]」(10年)など。



村井修 Moment 国立屋内総合競技場 1964年 セラチンシルバー・プリント

村井 修 (MURAI Osamu, 8点)

1950年、東京写真工業専門学校(現・東京工芸大学)卒業。53年より、建築や彫刻を撮影し始める。丹下健三や白井展一の建築、フランク・ロイド・ライトによる「帝国ホテル」、世界各地のパブリックアートの撮影を手掛けている。主な写真集に「写真都市」(83年)、「石の記憶」(89年)、「シドニーオペラハウスの光と影」(共著、2001年)など。写真展、受賞多数。



渡辺眸 東大全共闘 1968-69年 セラチンシルバー・プリント

渡辺 眸 (WATANABE Hitomi, 10点)

1939年、東京都生まれ。明治大学文学部卒業後、出版社に入社。その後、東京総合写真専門学校を67年に卒業。68年に最初の写真集「新宿コンテンポラリー」を刊行。東大全共闘をバリエードの内側から取材して69年、「東大全共闘」を刊行。72年に初めてインドを訪れ、76年に個展「天竺行」を開催。97年に、これまでの活動を集大成した『西方神話』を刊行する。



新井卓 2011年7月25日、新宿村新橋 2011年 タグレオタイプ

新井 卓 (ARAI Takashi, 2点)

1978年、神奈川県川崎市生まれ。国際基督教大学中退、東京総合写真専門学校卒業。写真黎明期の技法・タグレオタイプ(銀板写真)を独自に習得し制作活動を展開、国内外で作品を発表し続けている。主な個展に横浜美術館「鏡ごしのランデヴー／Rendezvous on Mirror」(2006年)、川崎市市民ミュージアム「夜々の鏡／Mirror in Our Nights」(2011年)ほか多数。このほか東京国立近代美術館「写真の現在4 そのときの光、そのさきの風」(2012年)に参加した。

このほかに、下記の作品・資料をご寄贈いただきました。心より厚く御礼申し上げます。

写真作品	梅坂篤生(3点)、江崎礼二(1点)、鍛冶谷直記(10点)、冠松次郎(52点)、北井一夫(8点)、下島勝信(1点)、鈴木真一(1点)、津田隆志(1点)、中川泰(70点)、中島待乳(1点)、中村ケンタロー(1点)、非ユークリッド写真連盟(20点)、福森白洋(116点)、作家不詳(徳大寺公弘と犬、1876年、アンプロタイプ、11点)、Walker Evans(2点)、Edward Steichen(1点)、作家不詳(ドレスを着た夫人の肖像写真 ほか、オートクローム、3点)
写真資料	内田九一(4点)、金田英雄(1点)、福森白洋(73点および浪華写真倶楽部最高受賞者 橋など16点)、作家不詳(水戸 偕楽園、鶏卵紙、134点)
映像作品	末永蒼生(2点)、三田村峻右(14点)、宮井陸郎(2点)、松村泰三(1点)、Narpati Awangga a.k.a. oomleo(1点)



椎原治 (フォトバンチュール) 制作年不詳 セラチンシルバー・プリント

椎原 治 (SHIHHARA Osamu, 8点)

1928年に東京美術学校西洋画科に入学し、藤島武二の下で学ぶ。32年同校を卒業、関西に戻り、兵庫県武庫郡今津町にアトリエを構える。このころ、関西における新興写真の拠点のひとつであった丹平写真倶楽部に加わる。フォトグラムやソリリゼーションなどの特殊技法のほか、写真とドローイングの併用技法ともいえる「フォトバンチュール」という独自の技法を駆使し、近代的な写真作品を数多く残した。戦後は大阪府池田市に移り、染色関係の会社に勤務する傍ら写真を続ける。53年には丹平の会員、棚橋紫水、河野徹らと共にシュビーゲル写真協会を結成した。



佐藤時啓 光一呼吸 #22 1988年 インクジェット・プリント

佐藤 時啓 (SATO Tokihiro, 52点)

1957年、山形県酒田市生まれ。84年、東京藝術大学大学院美術研究科修士課程彫刻専攻修了。ペンライトと鏡を使い、長時間露光によってフィルムに光と作家自身の動きの軌跡を定着する独特の作品で注目される。90年、第6回東川賞新人作家賞。海外での評価も高く、90年の第5回釜山青年ビエンナーレをはじめ、第1回アジア太平洋現代美術トリエンナーレ(93年)、第6回ハバナ・ビエンナーレ(97年)などに招待されるほか、主要な国際展にも多く出品している。本作は「佐藤時啓 光一呼吸 そこに在る、そこに在る」(2014年5月13日～7月13日)に展示。



岩井俊雄 時間屋II 1985年 ミクストメディア

岩井 俊雄 (IWAJI Toshio, 5点)

1962年、愛知県生まれ。筑波大学芸術専門学群在学中、第17回現代日本美術展大賞を最年少で受賞。三鷹の森ジブリ美術館の展示「トトロとよんよん」、ヤマハとの共同開発による楽器「TENORI-ON」など、さまざまなインタラクティブアート作品を手がける。著書に「いわいさんちへようこそ!」(紀伊国屋書店)、「光のえんぴつ、時間のねんど—園工とメディアをつなぐ特別授業」(美術出版社)などがある。



かわなか のぶひろ プレイバック 1973年 シングルチャンネル・ビデオ

かわなか のぶひろ (KAWANAKA Nobuhiro, 2点)

1941年、東京都生まれ。1968年にジャパン・フィルムメーカーズ・コーポラティブの設立に関わる。翌年に脱退し、佐藤重臣と日本アンダーグラウンド・センターを設立、上映活動を行なう。71年、アンダーグラウンド・センターを設立、主宰。1977年以降は四谷に上映拠点イメージフォーラムをオープン、その後、2000年に移転、シアター・イメージフォーラムを渋谷にオープン。若手映像作家の育成、機関紙の発行、フェスティバルの開催などを行う。著書に「映画・日常の実験」(フィルムアート社、1975年)など。



ヨセフ・スデック ブラハ(お気に入り10選) 1920年頃 セラチンシルバー・プリント

Josef Sudek (ヨセフ・スデック, 10点)

1896年、チェコスロヴァキア(当時)生まれ。1915年から第一次大戦に従軍し、17年イタリア前線で負傷、右手を失う。24年、チェコ写真協会を設立。诗情溢れるブラハ近郊の風景写真、アトリエ内部で作成した実験的な作品、精度の高いプリント技術などで高い評価を受け、66年、チェコ政府より文化功労賞を受けるなど、東欧のみならず世界中の写真家たちに影響を与え続けている。1976年没。



岡村昭彦 アイルランド 兵士による検閲を通り抜ける女性 1970年 発色現像方式印刷

岡村 昭彦 (OKAMURA Akihiko, 162点)

1929年、東京都生まれ。47年、東京医学専門学校(現・東京医科大学)を中退し、52年末からトリスビ修道院に住み込む。59年、部落解放同盟に入る。61年、総評の機関誌「新週刊」編集部での仕事を通して、土門拳、三木淳らの知遇を得る。62年、PANA通信社に入社、バンコクを取材。63年、南ベトナム前線を取材し、『LIFE』に写真が特集され注目を集める。以後、韓国、ピラファ、アイルランドなどを取材する。本作は「岡村昭彦の写真 生きること死ぬことすべて」(2014年7月19日～9月23日)に展示。